愛光NEWS
2024年8月

２０２４（令和６）年９月３０日発行
（編集）愛光本部
（TEL）０４３－４８４－６３９１
（HP）https://www.rc-aikoh.or.jp/

９月にはいっても日中は本当に暑い日々が続いていましたが、やっと心地よい風に秋の気配を感じられるようになってきました。

８月２７日に、法人ではＢＣＰ研修が開催されました。今後も、ＢＣＰの理解を深め、事業所で防災対策の討議を積み重ね、対策を一層整備していきたいと思います。

□事業経過など（2024.8.1～）

1	木	ﾒﾝﾀｰ委員会・辞令交付式
2	金	本部実績会議・本部スタッフ会議・ファミリーフェスタ実行委員・70 周年 WT
5	月	辞令交付式
6	火	業務執行会議・秋まつり実行委員
7	水	地域食堂委員会・子育て応援 WT
8	木	人材育成トレーニング・広報委員会・メンター情報交換会
9	金	ともいき PT・広報委員会
13	火	感染症対策委員会、衛生委員会・防災委員会
19	月	佐倉圏域事業部実績会議
21	水	地域食堂ともいき・栄養改善委員会・強度行動障害基礎研修
22	木	研修委員会・ネットワーク構築 WT
23	金	ボランティア委員会
26	月	障害者支援事業部実績会議・テクニカルスキル研修・入退所調整 WT
27	火	BCP 研修・コンプライアンス委員
28	水	経営戦略会議・地域福祉事業部実績会議
29	木	財務ビジョン PT

■月報から

□クラスター　　（ルミエール）

この月報にコロナウイルスの内容を書くことは多いが、1年ぶりにクラスターが発生した。対応した回数も多くなったので落ち着いて対応できるようにはなってきたのは職員と施設が積み重ねてきた経験が活きているからだと思う。もちろん感染者へ直接支援に入った職員の精神的身体的負担は相当なものであるが終息まで粘り強く取り組むことができた。コロナ禍がはじまって４年が経つが、相手が見えないことや感染力、症状等変化していること、何より５類に変わったことによりコロナウイルスが日常となっている社会との関わりも変化している。感染症を正しく理解し「正しく恐れて正しい支援」ができるようこれからも学んでいきたい。

（ルミエール課長　原　宏之）

□バトンをつなぐ　　（めいわ）

愛光裏手にある佐倉南図書館は、以前から愛光の日中活動班とお付き合いがあり、花壇の管理をさせていただいている。その繋がりもあり、この度、日中活動班の販売スペースを提供していただけないかと相談したところ、快諾していただいた。こうして、月に一度、10 時から 14 時までの時間、図書館内に販売ブースを設けることで話を進めることになった。

めいわの日中活動班にはそれぞれリーダーがおり、班をまとめてくれている。今年度は、そこにサブリーダーを新たに設けた。次のバトンを託す若手の職員を育てたいというねらいがある。今回、新規で販売ブースを作るという経験は、絶好の機会だった。8 月 30 日プレ販売会をすることが決まり、サブリーダーの 2 人は、販売会に並べる品物を各班に依頼し、図書館に掲示する告知ポスター、チラシを作成、SNS 用の告知広告も作り、オープンに向けて準備を進めていった。

そして当日。丁度、台風 10 号が迷走していた時期である。この日も雨が降ったりやんだりの天候だった。図書館の利用客が少ないと販売会としては厳しい。不安の残る中、プレ販売会がオープンした。利用者 2 名とサブリーダーで店番を、主任は少し離れたところからそっと見守っていた。場所柄的に、元気よく呼び込みすることはできず控えめにしていたが、図書館を出入りするお客様が興味を持ち店に立ち寄ってくださり、都度サブリーダーが商品の説明を行った。ポチ袋、油吸収パット、ポーチ、堆肥等、結果的には 9200 円を売り上げ大健闘と言える結果となり、今後も月に一度、販売させていただくことが決まった。販売経験のないサブリーダーが今回一から準備に関わり頑張ってくれた。一人は、販売会の前、こっそり図書館を訪れ、自分が作ったポスターが貼られているのを確かめて嬉しかったそう。

（めいわ課長　中田　憲一郎）

□お盆休み真っ只中の稼働率　　（根郷通所センター）

今年度は開所日数の都合によりお盆期間中の 13 日（火）を開所することとした。通所者数は通常の３分の１の利用者が欠席で土曜開所日より少し多い位の数であった。今年度はイレギュラーな開所であったが、この人数を多いとするか？少ないと捉えるのか？今後の稼働率向上の糧としたい。

ご家族からは、『お盆の準備などのために開所していて助かった』との声や『20 年ぶりに地域の行事に参加することができた』などの声も聞かれた。見方を変えれば日中一時の利用やシ

ョートステイの活用など法人内のサービスがまだまだ浸透していないことが伺える。法人内で展開している他の福祉サービス利用の理解を深めることや広報誌（おひさま便り）などを通して改めて発信することとする。

（めいわ通所部所長　菊地　暁生）

□夏を楽しもう会　　（リホープ）

8 月 30 日 「夏を楽しもう会」を開催した。お楽しみの食事（弁当）は、ロケ弁も手掛けている東京の業者に注文、みなさん「美味しい」とあっという間に召し上がっていた。余興は、エレクトーンクラブの演奏・クイズ・映画鑑賞（ポップコーン付き）・カラオケ・ヨーヨー釣り・ボーリング・紐くじを用意。エレクトーンクラブの演奏は、選曲が懐メロシリーズであった。演奏に合わせて体で踊ったり歌う方など様々であった。また、ボーリングやヨーヨー釣りは、普段されない意外な動きをみることができた。（これは、ADL の新たな発見につながるか）来年は、利用者のみなさんの意見を聞きながら、いろいろ考えて開催したい。

（リホープ課長　稲垣　直子）

□夏祭り　　（山王の家）

昨年は四街道の夏祭りに出掛けた女性利用者 2 名。今年は成田の祇園祭に職員と出掛けた。出店や山車、踊りを見てきたとワイワイしながら話していた。夏休み帰省しない利用者で夕食にホットプレートを使って焼きそばやお好み焼きを作って食べたり、山王小学校の夏祭りに出向いたりして楽しい時間を過ごした。

（山王の家管理者　岡本　綾子）

□佐倉市「地域福祉フォーラム」にてパントリー活動が取り上げられます
（ワークショップかぶらぎ）

地域福祉フォーラムは「第 5 次佐倉市地域福祉計画」（佐倉市）と「第 7 次地域福祉活動計画」（佐倉市社協）の進捗報告を軸としたイベントである。そのフォーラムにおいて、あったかパントリーの活動を第２部のテーマとして取り上げたいと市から要請があった。愛光秋まつりと日程が重なっており我々が現地に赴くことは難しいが、現在録画での参加を軸に協力する方向で準備が進められている。

『地域福祉フォーラム』（主催：佐倉市社会福祉課、佐倉市社会福祉協議会）
令和 6 年 10 月 5 日（土）13：30～15：30　志津コミュニティセンター　大ホール
コーディネーター：国際医療福祉大学大学院　医療福祉学分野責任者　　小林 雅彦 教授

（ワークショップかぶらぎ主任　宮部　和樹）

□地域連携推進会議　　（アシスト）

居住系サービス（入所施設、GH）において、来年度から義務化される項目に「地域連携推進会議」がある。法人内の居住系サービスでは、実施に向けて準備をしているところであるが、この会議では必須の参加者として「利用者」「利用者家族（参加利用者とは別の家族）」「地域住民」を挙げている。その他、必須ではない参加者として想定されている枠に「福祉関係者」「経営に知見のある者」「行政等」がある。

この中で相談支援専門員が関わる可能性がある枠に

「利用者（担当相談支援専門員として）」

「利用者家族（担当相談支援専門員として）」

「福祉関係者（相談支援事業所として、基幹相談支援センターとして）」

「行政等（基幹相談支援センターとして）」

がある。今年度は努力義務であるが、来年度から義務化されるのは冒頭で述べたとおりである。佐倉市内の GH は近年増加の一方である。この状況では、相談支援事業所にいつ声がかかるかわからない。まずは会議で説明をし、其々の相談支援専門員が認識するところから取り組んでいる。

つねづね感じるが、義務化対象サービスだけでなく、関わる可能性のあるサービスにも情報提供をしてほしいものである。まずは法人内の対応を良く見て、次年度以降に参加の声がかかった際には対応できるように準備をしたい。

（佐倉圏域事業部長　近藤　美貴）

□夏休みの体験　　（よもぎの園）

夏休みに入ると特別支援学校のご家族、生徒の施設見学の申し込み希望がある。１年生や２年生の生徒さんが多く、後期の実習先を探すための施設見学である。見学の方に話を聞くと夏休み中に他のＢ型や生活介護の事業所も見に行くとのことであった。

よもぎの園としては見学だけではなく、体験も案内している。見学だけだとわからないことも多いので夏休みを利用して体験してみて実習先を考えてくれればと思っている。結果、夏休みに生徒さんは体験することとなり１日であったが受け入れた。生徒さんも１日頑張って仕事しており、その様子をご家族に伝えると実習とは別に利用できたことを大変喜んでいた。後日、後期の実習の申し出があり良い印象を持っていただけたかなと思う。

（佐倉市よもぎの園主任　近藤　真一）

□災害に備える　　（はちす苑）

８月１６日（金）に台風７号が、非常に強い勢力で千葉県へ大接近する予報となった。

大雨と暴風に厳重警戒とする中で、台風の進路や最接近時間等の情報を確認しながら、はちす苑の各部署で対応を行った。

・デイサービスでは、状況に合わせた適切な開所時間と送迎の時間を模索した。ご家族には 2 日前から送迎等の時間が変更になる可能性をお知らせした。前日には、台風が夕方に千葉県の東を通過するという予報のもと、当日は昼食を済ませてから帰宅する予定をご家族にお伝えした。当日は、朝からお休みの方もおり利用人数も少なかった。昼食後にそれほどひどい天気ではないなか皆さん無事帰宅した。

・ホームヘルプでは、前日に訪問を前倒ししたり、当日の訪問を１５時までと限定して対応した。当日の夕方におむつ交換等で必ず訪問しなくてはならないご利用者がいなかったこ

とが幸いした。
・ケアプランでは、訪問を控えて早めに帰宅した。近くで、担当者会議に出席しなくてはならない職員は十分な対応を心掛けながら参加した。
・配食サービスでは、「緊急時に関する対応や基準」に基づき佐倉市と協議した。前日に、当日のための非常食の提供と当日は電話での安否確認は行うことで、お弁当の配達を中止とした。
・特養、ショートステイでは、停電に備えてランタンのある場所や非常食の確認を行った。
・職員の勤務状況は、公共の交通機関の運休や遅延に備えてできるだけ車通勤の職員が勤務に当たるよう、また車でも無理せず早めに退勤できるよう安全を第一に考えて調整した。

幸い、台風７号は房総半島の東側を通過して佐倉市周辺には大きな被害はなかった。しかし、今後も大型台風が通過する可能性は大きいと思われるので、ご利用者、職員の安全安心を第一に考えた備えを続けなくてはならないと考える。

（はちす苑　苑長　安部　一義）

□地域ケア圏域推進会議　～弥富地区・坂戸～　　（南部地域包括支援センター）

２０日（火）、今年度１回目の地域ケア圏域推進会議を開催し、地区社協や民生委員、地域食堂の代表等地域で活動されている方々に参加していただいた。今回は坂戸地区を対象とし、「地域とのつながりについて考える」をテーマに行った。「高齢で体調が悪くなり外出が減り、今まで交流していた近所の方とも疎遠になってしまった」といった事例から、改めて地域との繋がりを再構築するにはどのようなことが必要か、「地域であったらいいな」を考えた。

坂戸地区は高齢化率 46%、地域柄 80 代になっても元気に活躍されている方が多い。昔からの馴染みの関係性も強く、最近では認知症高齢者の徘徊について地域で見守る体制ができた事例もあった。それでも意見としては、「交流の場」が多く挙がった。月１回開催の「みらい食堂」は若い世代が中心となり、子どもから高齢者まで集まれる地域住民の交流の場になっており、誘い合って行くようにしたいとの話もあった。地域の伝統行事を引き継ぎ、世代間交流をどう行っていくか大きな課題との声も挙がった。

また、高齢者が交流の場に参加するには「移動」の問題がある。買い物や通院を目的とした移動支援も長年の課題だが、参加するための移動支援も必要である。今後独居の高齢者が増えていく中で、独りになっても「孤立させない」支援を地域の中で考えていく必要があると感じた。 今回挙がった地域のニーズを佐倉市とも共有し、地域と共に引き続き考えていく。

（南部地域包括支援センター管理者　森　由美子）

□ふれあいサロン南部　　（南部地域福祉センター）

８月２日（金）毎月センターの事業などに関わってくれているボランティアによる「ふれあいサロン南部」が、A 棟大広間で開催された。当日は４０名近くの方がセンターに訪れ参加された。職員は講師のアシスタントとして、講師が持参した脳トレ主体の問題集を、ホワイトボードに写す担当をしたが、大勢の前で文章や図を書き写す作業だったため、上手に書き写しができるか緊張してしまった。何とか職員の書いた図で脳トレが順調に進行され安心した。脳トレの問題は、国語、算数、理科、社会、ことわざクイズから、手話遊び、観光地の名称などの「穴埋め問題」など、さまざまな種類の脳トレの問題や運動に、多くの参加者は真剣に取り組まれていた。

（南部地域福祉センター　青山　秀人）

□怖いおはなし会　　（佐倉市南部児童センター）

夏休み恒例企画「怖いおはなし会」。３０名に増やした定員は、あっという間にいっぱいになった。怖いおはなし会のあとは、人気のスライム作りもあり、暗いところが苦手といっていた子も参加したようだった。当日は会場を暗くし、気温も低めに設定。司会のインストラクターがくらーい声で挨拶すると、これから始まるおはなしの世界に子どもたちもそわそわしていた。最初の話は、絵本の読み聞かせで照明がほんのりついていたため、子どもたちは余裕の表情を見せていたが、明かりがスポットになり「語り」が始まると・・・・思わず正座になり、背筋がピーンとなる子が増えてきた。それもそのはず、一人で語っているのに、たくさんの登場人物が目に浮かぶような語りで、どんどん引き込まれていく。大人でさえもぞくぞくした。そして最後には意外な「オチ」があり、がくっと肩の力が抜ける話があったりと、あっという間のひと時だった。家に帰った子どもたちは、さっそく聞いてきた話を家族に聞かせおどろかせたとのこと。この日の子どもたちは、作ったラメ入りのキラキラスライムを嬉しそうに触りながら笑顔で帰っていった。ちょっと涼しいひと夏の想い出になったことだろう。

（南部児童センターインストラクター　吉田　知加子）

□夏休み　　（学童保育所）

１年生にとっては初めての夏休み。暑さ指数も高く、１日中室内で過ごしていると、毎年「つまらない」「家に帰りたい」という声が聞こえてくる。子どもたちに楽しく過ごしてもらうために水遊び、スライム作り、プラ板工作、エコバック作り、こわいおはなし会と、毎週行事を計画し、子どもたちが興味をもったものに自由に参加できるようにした。保護者からは「学童の行事に合わせて自分の休みを取るようにする」という声が聞かれ、子どもたちと夏の予定を楽しみにしている様子であった。行事後は、子どもたちから「家でもスライム作ってみた！」「プラ板やりたいから毎日行く！」「こわいおはなし会楽しかったよね！」という声が聞かれた。微力ながら、子どもたちの夏の思い出の１ページに入れてもらえたことを嬉しく思う。

他にも、低学年に取り組みやすい工作や、夏休み明けに学校に持参できるようなものを一緒に作るなどした。

（学童保育所主任　齋藤　理江）